東京音楽大学リポジトリ
Tokyo College of Music Repository

バロック・リュートの奏法から見る当時の器楽様式

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水戸, 茂雄, 坂崎, 則子, Mito, Shigeo, Sakazaki, Noriko メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1488

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

共同研究発表報告

「バロック・リュートの奏法から見る当時の器楽様式」

2022 年 11 月 10 日

水戸 茂雄先生のリュート演奏、坂崎 則子解説
バロック・リュートでの実際の楽曲演奏で当時の楽曲の奏法を確かめる。

・フランス・バロックのリュート音楽

この時期は貴族開催のサロンで、思想家 Voltaire や作家モリエール、画家ウスターシュなどが集い、高度な文化水準を築きあげていた。フランス・バロックのリュート音楽もこのような環境で育まれ、レパートリーや装飾法などに当時の好みが大いに反映し、独特な世界が形づくられていった。この時期の調弦や奏法について、説明された項目は以下の通り。

・調弦、ピッチ

1600 年頃、ルネサンス調弦から多様なバロック調弦へ変化。ルネサンス調弦は基本的に 3 度（シ－ソ）をはさんだ 4 度間隔の調弦が基本。

ルネサンス調弦；高音からラ−ミ−シ−ソ−レ−ラ
バロック調弦　：高音からファ−レ−ラ−ファ−レ−ラ（ニ短調主和音）

バロック・リュートでは特に「カンパネッラ奏法」が多用される。この奏法は各弦間の音程が狭くなったために、音階を弾く際、弾いた音の残響が重なり合い、重層的に鐘（カンパネッラ）が響き合うような独特の効果が生み出される。

当時のピッチについては、ヴェルサイユ「宮廷楽団　Musique de la Chambre」で用いられたタスカン Taskin の音叉(1780 年頃のオーボエに合わせて作られた)は a=409。これはリュリのオペラで用いられたピッチと同じ。また、ダルリ・エ・クリコ社製のヴェルサイユ礼拝堂オルガン用の音叉は a-396。現在ではこれらの資料に沿ったピッチが採用されている。

イタリアではリュートはルネサンス調弦のままバロック期を終える。ドイツ語圏ではフレンチ・バロック・リュート（11 コース）が入ってくると、一気にフランス様式が定着。後にヴァイス Silvius Leopold Weiss (1686-1750)によってバスに弦が 2 コース増やされ、13 コースのリュートとなって、長大な曲が作曲された。

・リュートにおけるプレリュード・ノン・ムジュレ（Prélude non mesuré）

当時のプレリュードは自由な形式をとり、拍子付けのないプレリュードが多く書かれた。さらに、旗のあるもの、旗のないものの2種類が見られる。

・ノート・イネガル（Notes inégales）と装飾音

一定の音価が連続した時に、それを不揃いに演奏する演奏習慣で、この奏法はすでに 16 世紀スペインで用いられていた。多くの場合、ここに装飾音が加わって、一層楽曲に豊かな表情が加わることになる。

・スティル・ブリゼ（Style brisé）

和音を順不同に分散させて弾く演奏法。リュートの装飾法の中でも重要なもののひとつ。和音を分散させて華やかにする装飾法であると同時に、対位法的な動きが織り込まれて楽曲に奥行きを与える。

・リュートとクラヴサンの相互影響

アンヌモン・ゴティエ Ennemond Gaultier (c.1575-1651)の影響を受けたルイ・クープラン Louis Couperin (1626-1661)が、クラヴサン演奏にリュートの奏法を取り入れて「スティル・リュテ」を確立。こうしたフランスの演奏様式はドイツに取り入れられ、ロイスナー Esaias Reussner (1636-1679)、ロジー Jan Antonin Rosy（ヨハン・アントン・ロジー・フォン・ロージンタール c.1650-1721)、ヴァイスなどが使用した。

・舞曲による組曲―まとめ方と副題

17 世紀フランス・リュート音楽では、後に確立される室内ソナタの形ではなく、同じ調性の種々の舞曲をまとめて小品集とし、その中から何曲か取り出して演奏された。フランスにおいては副題として神話の神の名を付けたり、曲想とは無関係なタイトルが付けられることも多い。また、中でもトンボー（Tombeau 墓…死者のための追悼曲）として多くのアルマンドが書かれた。

例）アポロン、アティス神の栄光、美しき殺人女、メザンジョーのトンボー等々

・舞曲実際例(演奏)

Preludium 2 曲　Anon.
Prélude　Charles Mouton
Prélude　Jacque Gallot

Allemande ＼
Courante　BWV995　J.S.Bach
Sarabande ／

Courante　Denis Gaultier
Sarabande　Dufault

ノート・イネガル例
La montfermeil Rondeau　Robert de Visée

参考文献、楽譜

ヴェイヤン, J.C.(Veihan)著　細野隆興訳『フランス・バロック音楽　解釈と演奏の原理』
Preludium 2 曲 Anon.　Saizenay 写本
Prelude　C.Mouton　Pieces de luth sur differentes modos
Prelude　J.Gallot ライプツィヒ写本 Ms.Lei.116 14　ff.14v-15v
Montfermail rondeau　R.de Visée　Saizenay 写本
Courante, Sarabande　Bach ブリュッセル　ロイヤル・アルバート図書館
Allemande, Courante, Sarabande　Bach ブリュッセル
ロイヤル・アルバート図書館 fetis2910=fetis2910=Ms.11　4085
Sarabande　et Double　Default　Ceuvres de Default　Edition et transcription
par Andre Souris
Courante　Gaultier　Oeuvres du vieux Gaultier　Edition et transcription par Andre Souris

使用楽器

13 コースバロック・リュート　a=415hz（紀伊利臣 作）